

# ～パリへ向かうショパン、 アメリカへ向かう ラフマニノフの肖像～

1800年代のヨーロッパ・アメリカでは、自由を求めるフランス革命や科学技術の急速な発展などと共に、人々の生活は大きく変化しつつ、やがて1900年代のロシア革命・2つの世界大戦などを迎えることとなります。そんな揺らぐ社会のなか、19世紀前半、ポーランドからパリへ向かったショパンの音。19世紀末から20世紀前半、ロシアからアメリカへ向かったラフマニノフの音を、絵画・当時生まれた写真などの視覚イメージとともにどうぞ。

図1は、フランスの発明家ニセフォール・ニエプスが1822年に撮影した最初期の写真の1枚です。



図1) 1822年、世界最初期の写真の1枚

## Program Note

ショパン (1810/09-1849.10.17) Chopin, Frederic

### アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 Op.22(1830-35)

Grande Polonaise brillante précédée d'un andante spianato in E flat major Op.22



図2 ヴォジンスカ自画像  
図3 1835年のヴォジンスカによるショパンの肖像

故郷ポーランドを離れパリに到着して間もない、二十歳過ぎの作品。前半の「スピアナート」は「滑らか」の意味で、爽やかな抒情が歌われます。後半の「ポロネーズ」はポーランドの宮廷起源の舞曲で、気品ある力強さが魅力的です。

この頃ショパンは、ポーランド時代から幼馴染で音楽や絵画など才能あふれるマリア・ヴォジンスカと婚約関係にありました。この時期の、いずれもヴォジンスカによる自身の自画像(図2)とショパンの肖像(図3)には穏やかな幸せが滲み出ているようにも感じます。

### バラード 第4番 へ短調 Op.52(1842-43)

Ballade No.4 in F minor Op.52

### ポロネーズ 第6番「英雄」 変イ長調 Op.53(1842)

Polonaise héroïque in A flat major Op.53

しかし、その直後36年に女流作家のジョルジュ・サンドと出会い、この2人の仲が深まってゆき、この関係は晩年の47年まで続きます。サンドの肖像(図4オーギュスト・シヤルパンティエ画)は、ヴォジンスカがショパンの肖像を描いたのと同じ、35年のもの。図5のショパンの肖像は2人と友人だった名画家ドラクロワによる38年のもの。

その後、ショパンは結核で体調を崩しながらも、40年代には作曲家として非常に充実した時期を迎えます。バラード4番・ポロネーズ6番「英雄」はこの時期の傑作です。バラードは物語的に展開し、繊細な抒情を感じさせつつ、ダイナミックで雄渾な傑作。英雄ポロネーズも高度な演奏技術が要求されるとともに雄大な傑作です。

49年の亡くなる直前、当時流行しはじめた写真(図6)が残されました。



図4



図6

図5) ドラクワによるショパンの肖像

図4) 1835年のサンドの肖像  
図6) ショパン最晩年の写真

ラフマニノフ (1873.4.1-1943.3.28) Rakhmaninov, Sergei Vasil'evich

### ピアノ協奏曲 第3番 二短調 Op.30(1909)

(共演:関本昌平 ピアノ2台による)

Concerto for piano and orchestra No.3 in D minor Op.30  
(2nd Piano:Shohei Sekimoto)

- |      |                 |                       |
|------|-----------------|-----------------------|
| 第1楽章 | アレグロ            | 1. Allegro            |
| 第2楽章 | インテルメッツォ: アダージョ | 2. Intermezzo: Adagio |
| 第3楽章 | フィナーレ: アレグロ     | 3. Finale: Allegro    |



図7) 1885年、12歳のラフマニノフ

1873年にロシアで生まれたラフマニノフは、1909年にアメリカへの演奏旅行のためにピアノ協奏曲第3番作曲し、ニューヨークで初演しました。全3楽章からなり、第1楽章冒頭のピアノの極めて繊細な抒情、高難度のカデンツァ、また神秘的な雰囲気にも包まれる第2楽章、さらに第3楽章でオーケストラ(今回は関本昌平によるピアノ)とともに奏でられる激情までが、美しく結晶した名作です。

図8は、ロシア・イワノフカの別荘でこの作品を校訂している彼の写真です。こののち1917年にロシア革命が起こるとアメリカへ亡命し、終生ロシアで生活することはありませんでした。



図8) 1910年、露イワノフカの別荘で



図9) 1923年、米ニュージャージーの別荘で